

令和5年度 学校自己評価システムシート （さいたま市立 本太 小学校）					学校番号	006		【様式】	
目指す学校像		笑顔あふれ、規律ある学校 磨き合い・学び合い・高め合える学校 組織力を十分に発揮できる学校							
重点目標	1	主体的に考え、行動し、豊かに交流できる児童をはぐくむ教育活動の推進			※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。				
	2	他者と豊かにかかわり、節度ある児童の育成と安心・安全な教育環境づくり							
	3	保護者、地域との連携強化による、信頼される学校づくり							
	4	組織の力が十分発揮され、誰もがやりがいを感じる学校づくり							
学 校 自 己 評 価					学 校 運 営 協 議 会 による 評 価				
年 度 目 標					年 度 評 価				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策		実施日令和5年2月20日
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数共に全国、市平均と比べ概ね良好な結果である。 ○単語や計算等の基礎的な力は身に付いているが、文章題など複雑な問題に対して考える前にあきらめてしまう傾向が見られる。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の分析から、苦手な問題や難しい問題にぶつかると、問題に取り組む前にあきらめてしまう傾向がある。 ○児童アンケートによるICTの活用状況が低く昨年度末のタブレット故障機が約40台ある。	○学びの自律と個別最適化、探求化を可能にするICTの効果的な活用 ○児童が学習活動でICTを活用できる	①全国学力・学習状況調査の振り返りを通して、自らの学習課題を把握させ、児童の学びの自律化を図る。 ②各教科の授業でデジタルの優位性を存分に生かせるような授業計画にチャレンジし、個別最適で探求化する学びにつなげていく。	①児童童が自己採点の結果を基に、自らの学習状況を把握し、自分に合った目標を立て、達成に向けて主体的に学びを進めることができたか。 ②学校自己評価において、主体的な学びに関連する項目において、85%以上の児童が肯定的な回答をしたか。	①全国学力学習状況調査の結果を見ても昨年度より向上が見られる。また、自己採点結果をもとに児童が主体的に振り返ることができた。 ②学校自己評価においても主体的な学びに関連する項目は概ね85%を超えることができた。	B	①子どもたちの個別最適化と主体的な学びを促進させるために、学習ツールとしてのICTの活用をさらに進めていく。 ②子どもたちの学習観を変容できるような授業の改善に挑む。		・ICTは、子どもたちにとって「未来を拓く鍵」になるものである。 ・タブレットの破損が多いという課題を受け、PTAの協力のもとタブレットケースの整備等を行ったが、引き続き、児童や家庭にタブレットの扱い方を周知するなどICT環境の整備に努めてほしい。 ・ICTの授業での活用が増えている状況が見られるが、効果的な活用についてさらに研究を進めてほしい。
		○シン・GIGAスクール構想（SSSP）を最大限活用した授業改善の推進	①全国及び市の学力学習状況調査の結果から、無回答の状況を分析し指導方法の改善に向けた研修を行う。 ②エバンジェリストを増員し、環境整備を行うとともにミライシードの研修を進め、デジタルの優位性を生かした授業改善を進める。	①日々の授業において、自力解決する力を身に付けることで、全国学力・学習調査の無回答率を市平均より低くすることができたか。 ②ICTの活用に関する児童アンケートの結果で市平均を上回ることができたか。	①無回答率については、確実に減少している。授業の中で、児童の自力解決する姿が平常化されている。 ②ICTの活用については、学年・学級差があり、引き続きの努力を要する。	B	☆SSSPの最大活用を試行錯誤の中で推進し、本校に合った形に定着させる。		
2	(現状) ○不登校傾向の児童が複数名在籍している。必要に応じて、専門機関や学校の専門職とのつながりを持ち、対応している。 ○毎月のアンケートや児童理解研修等を活用し、児童の不安や児童間のトラブル等に組織的な対応をしている。 (課題) ○建物の老朽化が進んでおり、危険箇所や整備が必要な個所の点検を定期的を実施し、速やかな整備を進め、安心・安全で美しい環境を維持することが必要である。	○児童一人ひとりが幸せな学校生活を送れるよう支援する生徒指導・教育相談体制の更なる充実	①欠席状況や教室での様子を毎日観察し、気になる児童については、SCやSSWを含め組織的に対応し、必要に応じて関係機関とつなぐ。必要に応じてオンライン学習を活用する。 ②月1回、生徒指導、教育相談、特別支援合同委員会を開催し、具体的な対応について協議する。	①年間30日以上欠席している児童が、令和4年度に比べ、15%削減することができたか。 ②学校評価において、「学校が楽しい」と肯定的な回答をした児童が90%以上になったか。	①年間30日以上欠席している児童については、ほぼ前年度と同様の結果である。引き続き努力を要する。 ②約95%の児童が「学校が楽しい」と回答している。さらに一人ひとりに目を向けて、丁寧な指導に取り組んでいく。	B	☆積極的な教育相談体制を確立し、児童、保護者に寄り添った対応を丁寧に展開し、児童・保護者のニーズに応えられるよう尽力する。		・登校時の児童のあいさつが以前よりも増えた気がする。これは「学校が楽しい」と感じる児童が多くなっていることと関わりがあるのではないか。 ・生徒指導・教育相談体制をさらに充実させてほしい。 ・子どもの安全を第一に考えた施設の修繕等が大切である。危険な施設は修繕ではなく、撤去を検討してもよいのではないか。
		○安全・安心で美しい教育環境の整備	①日々の点検で危険箇所を早期に発見し安全措置を速やかに行うとともに、1週間以内に修繕を行う。 ②印刷費を削減し、捻出した費用を環境整備の費用に充てる。	①施設の修繕漏れに関わる事故が0%であったか。 ②年間の印刷費用を20%削減することができたか。	①修繕漏れに関わる事故は発生していない。 ②概ね達成することができた。	B	☆今後も安全に最大限配慮した施設点検・修繕等を行っていく。学校内外の老木の処理に引き続き取り組む必要がある。		
3	(現状) ○昨年度実施した学校運営協議会において、目指す児童像についての熟議やコミュニティ・スクールの目指す方向性等について協議し、共通理解することができた。 ○長年にわたり、安全指導、読み聞かせボランティア等の支援を得ながら、地域協働活動が展開されている。 (課題) ○学校運営協議会でポスト・コロナの教育活動等について熟議を深め、保護者・地域と連携した教育活動を推進する。 ○既存のネットワーク（SSN、MSN）を更に深化・充実させ、教育活動の充実を図る。	○家庭、地域、学校の連携強化を図るため教育活動の積極的な情報公開と相互の行事参加	①学校HPにおいて、学校運営協議会、SSN、MSN、学校だより等、積極的に情報発信し、保護者、地域の方と情報を共有する。 ②学校を支えてくださっている地域の方々の来校機会をつくるとともに、地域行事とのかかわりを増やし連携強化を図る。	①月2回以上のHPの更新や学校だよりのHP上での発信を行うことができたか。 ②地域と連携した行事への参加を年3回以上行うとともに、SSNを活用した授業を10回以上実施する。	①HPの更新は、毎日行うことができた。保護者・地域からの評判も高い。 ②目標に掲げた回数は達成することができた。	A	☆本年度紡いだ保護者・地域との連携、信頼関係をさらに深められるよう一層の情報発信と協働に努めていく。		・学校運営協議会を中心として、学校と地域との協働が進んでいるように感じる。 ・「大地震に対する備え」については、喫緊の課題であり、次年度は学校・家庭・地域で連携して進めていく必要がある。授業にも積極的に取り入れてほしい。 ・「地域を愛する子どもたち」をみんなで育成していきたい。
		○学校運営協議会における熟議の充実	①経営方針等について、各々の立場からご意見をいただき、熟議を深めることにより未来を見据えた「目指す児童像」や「教育活動」について絶えずアップデートして、教育活動の推進に活かす。	①学校運営協議会を年3回、着実に実施することができたか ②本音の意見、熟議の深化を図り、本校の教育活動を練り上げる風土を醸成し、具体的な教育活動として推進できたか。	①学校運営協議会は、本太中学校とも深く連携し、実施することができた。 ②地域の方と本音で意見を交わせるような良好なコミュニケーションを図ることができている。	A	☆現在、保護者・地域と大地震に対する備えについて話し合いを始めている。学校・保護者・地域で、今、できる備えについて熟議し、実際に行動に移したい。		
4	(現状) ○研究熱心で教育に対する情熱を持つ教員が多く、学校課題研修である道徳科の研究が深まっている。 ○校長の学校経営方針を踏まえて、学年主任を中心に、共通理解・共通行動が図られている。 (課題) ○教員研修の個別最適化及び学年主任等のマネジメント裁量の拡大により特色ある教育活動の推進を図る。 ○自己マネジメントできる自立・自律した教職員一人ひとりが互いの立場を尊重し合い、理解し合い、支え合えるチームワークを向上させる。	○学校経営方針を踏まえながら、各学年主任や各主任が教育活動等について創意工夫を凝らし積極的にマネジメントする ○自己マネジメント能力を拡大することによる働き方改革の推進（質的改革）	①校内研修では、道徳を中心に据えながら、プラスαで自己必要感を持つ内容の研修に各自で取り組む。また、研修履歴を活用した受講奨励による研修も併せて推進し、主体的な自主研修を実施する。 ②課題を明確にした研究授業を実施する。 ③学年主任が、自らの教育理念を掲げ、自学年の経営方針を明確にしながら、チャレンジ精神をもって学年経営を推進する。同様に、他の主任についても失敗を恐れず、創意工夫とチャレンジ精神を持って所掌する教育活動等を展開する。	①教職員一人ひとりが、チャレンジ精神を発揮して、目標を設定し、研修や教育活動に取り組むことができたか。 ②学校評価の職員評価における「働き方改革」の項目において、肯定的な回答が80%以上になったか。 ③学校評価における「授業の工夫改善」の項目において、肯定的な回答が80%以上になったか。 ④各学年1回以上の研究授業を実施し、課題について協議し、今後の授業改善に活かせたか。	①研修については、教職員一人一人が意識を高くして取り組むことができた。さらなる研修スタイルを自主的に考えられるようになっている。 ②働き方改革については、概ね目標を達成している。さらなる努力を継続する。 ③授業改善については、大変意欲的に取り組むことができた。 ④研究授業についても、意欲的に取り組み、授業を公開することが日常的に行われるようになっている。	B	①「研究は個業である」の言葉通り、教職員一人ひとりが研究課題を明確にして、取り組む自主的な研修を目指す。教科・領域に縛られず、個別最適化の課題を全ての教職員が明確にして取り組めるようにする。 ②学年主任をはじめ、各主任が目の前の子どもたちのためにマネジメント力をさらに発揮できるような校風を醸成する。		・日々の業務に加え、自身の資質・能力の向上のために研修を実施されていることに敬意を表する。 ・今後の研修では、失敗を恐れずに様々なことにチャレンジしてほしい。 ・教職員が研究に費やす時間を生み出すような工夫も大切である。